

## 私 は こ う 思 う

全国大規模農協協議会長  
熊本県経済連会長  
熊本市農業協同組合長

沢 田 治 男

## §1 緑の復活

最近緑の復活が叫ばれてきました。私は「農に生き、農に死ぬ」を信念とするだけに、何かしらホッとした感じです。

文明社会が進むにつれて、人間は土との縁が少なくなりました。鉄とコンクリートの壁に囲まれた生活が、文化的生活を代表した時代は過ぎたと思います。

人間の生活をほんとうに充実したものにするために、土の必要性が今更のように認識され、緑を取り入れた生活に目が向けられ始めました。

最近世界人口の増加と世界的な気象異常等で、世界食糧の危機論が話題となっています。わが国においても米の生産調整を始めてから3年になりますが、食糧自給率がカロリー計算で40%を割る状況では、世界食糧どころか、足元に火がついた感じです。また生活資材や農業資材等が足りないと新聞、テレビを賑わしていますが、食糧が足りなければ、安閑としておられましょか。

農業こそ土に親しみ、土から新しい息吹と国民の食糧を産み出し、安らぎの緑の生活へ一役も二役も買っているものではないでしょうか。緑の復活、それは人間生活の復活でなくて何でありましょ。農業関係者であることを、しみじみ有難いと思います。

## §2 農業に希望を

アメリカ・カリフォルニア州の行動科学研究所の研究者アール・オ・ヘデイという人が、経済発展と農業政策について述べております中に、興味深い内容があります。

第一はアメリカの農業政策です。アメリカは過

去、世界各国の人口と1日当り食糧摂取量をカロリー計算し、約10カ国を食糧不足国と推計し、これを基に油脂、小麦、豆類或いは動物蛋白などの必要量を推計し、アメリカ自体の需要量と合わせて生産計画をたて、アメリカの農産物輸出国としての地位を確立したのであります。

この考え方は現在もお生かされておりまして、アメリカの農業政策が、自給自足どころか、輸出国としての基本姿勢がうかがわれるのであります。

第二は、農業問題と経済成長との関係にふれておりますが、いくつかの重要な農業問題は、経済進歩から派生するが、経済成長の有無にかかわらず存在する農業問題もある。従って、経済成長だけで農業問題が解決するものではない。特定の政策がなければ、農業に特有な過剰問題も、価格の変動や所得不安の問題も解決しない、と述べております。

わが国農業の1戸当り経営面積1ヘクタールに比べ100倍の経営面積をもつアメリカ農業においてすら、農業のもつ悩みを深く認識し、保護政策の必要性を説いております。

第三に、アメリカ社会においても、経済進歩の基盤となる技術革新を行った企業は、そのまゝ社会的利益を受けられるが、農業者の場合は、その技術革新が供給量の増大となり、食糧の実質価格を引き下げ、所得の低下を見ることがしばしばあると、企業と農業の性格の相違を指摘しています

いずれにせよアメリカの農業政策を考えますとき、農産物の需給計画と価格安定、更に余剰農産物の輸出対策に精力的な努力を払っている姿がうかがわれます。

災害と豊作貧乏に泣かされないよう、長期且つ誤りのない農業政策が確立され、農業に希望を与えるよう願って止みません。(以上)